

平成 1 2 年 度			
第 2 回 宇都宮市国民健康保険運営協議会会議録			
1	日 時	平成 1 3 年 2 月 2 0 日 (火) 午後 3 時 ~	
2	会 場	宇都宮市役所 1 4 A 会議室	
3	出席委員		
	被保険者代表	金子 和義 委員	石井 万吉 委員 齋藤 光司 委員
		黒崎 道男 委員	村田 理枝 委員
	保険医・	中田 敏良 委員	中田 功 委員 星 紀彦 委員
	保険薬剤師代表	菱沼 昌之 委員	
	公益代表	小林 秀明 委員	山崎 守男 委員 高橋 森一 委員
		山田 雅子 委員	峰岸 欣子 委員
	被用者保険代表	市川 省二 委員	鯉沼 厚子 委員
		(以上 1 6 名)	
4	欠席委員		
	被保険者代表	数又 皓之 委員	相澤美智子 委員
	保険医代表	小林 豊 委員	小尾 英二 委員 螺良 勉 委員
	公益代表	熊本 勇夫 委員	近能 忠良 委員
	被用保険者代表	田野辺 操 委員	(以上 8 名)
5	出席職員		
	市民生活部長	入江 隆三	市民生活部次長 横堀 杉生
	国民健康保険課長	田中 亮	課長補佐 原田 洽
	保険給付係長	茂垣 治夫	保険税係長 小口 利行

収 納 係 長	関 口 章	管 理 係 主 査	増 淵 久
管 理 係 主 事	山 口 多 賀 子		
6 会 議 録 署 名 人	星 紀 彦 委 員	山 田 雅 子 委 員	(議 長 指 名)
7 書 記	課 長 補 佐 原 田 治	管 理 係 主 事	山 口 多 賀 子
8 付 議 事 項 及 び そ の 結 果			
報 告 事 項 (1)	平 成 1 2 年 度 国 民 健 康 保 険 特 別 会 計 決 算 見 込 み に つ い て		
(2)	平 成 1 3 年 度 国 民 健 康 保 険 特 別 会 計 予 算 案 に つ い て		
	—— 事 務 局 よ り 説 明 ——		
(開 会 午 後 3 時 0 5 分)			
【 事 務 局 】	定 刻 と な り ま し た の で 、 た だ 今 か ら 、 宇 都 宮 市 国 民 健 康 保 険 運 営 協 議 会 を 開 催 い た し ま す 。		
	ま ず 始 め に 、 市 長 が ご 挨拶 を 申 し 上 げ ま す 。		
【 市 長 】	本 日 は 委 員 の 皆 様 方 に は 何 か と お 忙 し い と こ ろ 、 ご 出 席 を い た だ き ま し て 、 誠 に あ り が と う ご ざ い ま す 。		
	2 1 世 紀 の 幕 開 け と な る 平 成 1 3 年 の 最 初 の 国 民 健 康 保 険 運 営 協 議 会 の 開 会 に 当 た り ま し て 、 一 言 ご 挨拶 を 申 し 上 げ ま す 。		
	国 民 健 康 保 険 制 度 は 、 こ れ ま で 地 域 医 療 の 確 保 と 、 地 域 住 民 の 健 康 増 進 に 大 き く 貢 献 し て ま い り ま し た 。		
	こ れ も 、 ひ と え に 国 保 関 係 者 の 皆 様 方 の 国 保 事 業 の 運 営 ・ 発 展 の た め の ご 努 力 の 成 果 で あ り 、 改 め て 感 謝 の 意 を 表 す る 次 第 で ご ざ い ま す 。		
	現 在 、 わ が 国 で は 、 年 々 医 療 費 が 増 大 す る 一 方 で 、 長 引 く 景 気 低 迷 の 中 、 従 来 の よ		

うな経済の高度成長は期待できず、医療費の伸びと経済成長との間の不均衡は、年々拡大してきており、医療制度の抜本的な改革なしには、昭和36年から続いている国民皆保険制度そのものが、危機に瀕する恐れがあります。

このような中、制度改革の第一歩として、今年の1月から、「老人の上限付き定率1割負担の導入」や「高額療養費の見直し」などの改正が行われましたが、今後は、平成14年度を目途とされる制度の抜本改革が待たれるところでございます。

とりわけ、高齢化や経済情勢の影響を最も受けやすい国民健康保険にとりましては、制度の抜本改正の実現こそが切実な願いであり、特に、医療費の増高の主な要因である老人医療については、思い切った買い買いが急務であると考えております。

このため、本市といたしましても、全国市長会や国保連合会など関係諸団体とともに、国保制度の諸課題に対しまして、これまで以上に、積極的な取り組みを行ってまいり所存でございます。

新しい世紀の幕開けを迎え、皆様におかれましても、国保制度の充実・強化に一層のご支援を賜りますようお願いを申し上げます、私からのご挨拶とさせていただきます。

【事務局】 続きまして、高橋会長にご挨拶をお願いいたします。

【会長】 本日は、平成12年度第2回の国民健康保険運営協議会を開催しましたところ、委員の皆様には、なにかとお忙しい中、ご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。

また、日頃から、国民健康保険事業につきましては、格別なご協力をいただきまして、重ねてお礼を申し上げます。

さきほどの市長のご挨拶にもありましたが、国民健康保険事業は、ほかの健康保険

に比べ、高齢者や低所得者の加入割合が高いという構造的な問題をもともと抱えているうえに、バブル崩壊後の長期にわたる景気の低迷が加わりまして、保険税の収納率が年々低下するなど、厳しい事業運営が強いられているところでございます。

また、昨年4月の介護保険制度の開始によりまず第2号被保険者への介護保険料の上乗せ課税が、保険税の収納率へ及ぼす影響を心配しておりましたが、本市におきましては、市税等収納対策本部の設置などの収納対策の強化によりまして、いまのところ大きな落ち込みは出ておらず、安心しているところでございます。

さて、本日の案件は、「平成12年度国民健康保険特別会計決算の見込み」と「平成13年度国民健康保険特別会計予算案」についてでございますが、今後の国民健康保険事業の円滑な運営のため、委員の皆様からの活発なご意見をお願いいたしまして、ご挨拶とさせていただきます。

【事務局】 それでは、会議に入りますが宇都宮市国民健康保険規則第4条の規定に基づきまして、会長に議長をお願いいたします。

【議長】 それでは、会議次第に従いまして会議を進めて参りたいと思います。

まず最初に定数の報告を願います。

【事務局】 本協議会の定数24名でのところ、本日の出席委員は16名でありますので、宇都宮市国民健康保険規則第8条の規定する定足数に達しておりますので、会議が成立することをご報告いたします。

【議長】 次に、会議録署名人の選出でございますが、恒例によりまして私から指名させていただきますと存じます。

会議の署名人として「星委員」と「山田委員」のお二人をお願いしたいと存じますが、よろしいでしょうか。

【委員】（「異議なし」との発言あり）

【議長】 ご異議ございませんので、よろしくお願いいたします。

【事務局】 市長には、所用がございますので、ここで退席させていただきます。

【議長】 それでは議事に入ります。

本日は報告事項として「平成12年度国民健康保険特別会計決算見込みについて」と「平成13年度国民健康保険特別会計予算案について」の2件でございます。

この2件につきましては、相互に関連がございますので、一括議題といたします。説明を願います。

【事務局】（資料に基づき説明）

【議長】 事務局の説明が終わりました。委員の皆さんからご意見、ご質問等をいただきたいと存じますのでよろしくお願いいたします。

【石井委員】 被保険者が1月現在で73,972人でリストラ等で加入者が増えたということだが、保険税収入の平成12年度の決算見込額が予算額と同じなのはなぜなのか。現在の時点でも、被保険者が増減しているのだから、数字が変化してもよいのではないか。また、前には丁寧な資料があったが、国民健康保険税と一緒に介護保険料を徴することになって、心配していたので、その状況をもう少し丁寧に説明して欲しい。

【課長】 たしかに被保険者は増えておりますが、実態は、社会保険等からの加入者の所得が低く、調定額が伸びないという状況にあります。また、決算見込額が確保できるかということではありますが、収納率は対前年同月比では、現在では、約1%のプラスという状況であります。しかしながら、予算上収納率を70.45%と見込んでいるので予算額の確保はきわめて厳しい状況にあります。全課一丸となりまして、予算額の確保を目指したいと考えております。

【関口係長】 介護保険の収納率ですが、今年度から始まった制度で比較するものがあり

ませんが、医療保険に比べて若干悪いという状況でございます。

【石井委員】 予算額をなんとか確保するために頑張っただけだと思えますが、介護保険の収納率を上げることに力を入れていただきたい。

【課長】 (資料No. 1に基づき平成13年度滞納整理計画について説明)

【石井委員】 国保と社会保険との重複加入は実際にあるのか。

【課長】 国保と社会保険に加入した場合、自動的に国保をぬけるものと考えている人がおり、社保に入ってもそのままにしている人がおり、そのような人を捜し出して、国保の資格を落としております。

【山田委員】 今年は、風邪が流行っていないということで、療養給付費が減額となっているが、インフルエンザのワクチンは、3,000～6,000円の自己負担がかかるので、療養給付費が余っているのであれば、行政としてワクチンへの補助を考えていないのか。

【課長】 平成12年度大田原市が助成を行っていると聞いているが、本市におきましても、来年度予算に70歳以上の高齢者対象に助成する制度を始めることになっております。

【中田(功)委員】 国保の審査委員をしているが、再審査の件数が増えているが、市としては、レセプト点検に力を入れているのか。

【課長】 レセプト点検嘱託員4名で審査を行っており、医療費の適正化に少しでもつなげてゆきたいと考えております。特に、国保連合会は、内容点検を行っているので、市としては、資格点検に力を入れています。

【議長】 他にご意見がないようですので、その他で何かございますか。

【中田(敏)委員】 保険証のカード化は、いつから、どのように実施するのか。

【課 長】 昨年末から今年にかけて、厚生労働省から、被保険者の利便性を図るため、カード化の話はきておりますが、保険証の交付については、保険証の色、交付日などこれまでも県内同一步調を取ってきた経緯がありますので、県内49市町村一斉に、早ければ、今年の10月1日、あるいは、その次の年となる可能性もございます。ちなみに、政管健保は3年後に実施いたします。

【議 長】 他に、ないようでございますので、以上をもちまして本日の議事は終了いたします。

今後とも、国民健康保険事業が円滑に運営できますよう、皆様のご協力をいただきたいと存じます。ありがとうございました。

(閉会 午後3時50分)

この会議録に相違ないことを証するため、ここに署名いたします。

宇都宮市国民健康保険運営協議会

会 長

委 員

委 員